

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓の『自由と規律』と教育目標の『明るく、逞しく、心爽やかに』を実践し、生徒が自らの言動を統御（コントロール）すると共にその責任を負い、明るく逞しく心爽やかな国際社会に通用する人間の育成をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒、保護者の希望や意向を十分に踏まえ、教員の授業力向上による学習指導の推進を図る

- ① 学習不振者には、補習を通して基礎学力の定着と進展を図ることで留年生徒や転退学生徒を減少させる。
 - ② 進学希望生徒達には、授業内容はもとより計画的な講習を通じて進路実現に向けて努力させる。
 - ③ 新規採用 4 年目の教員を中心に、研究授業等により授業力の向上に取り組む。
 - ④ 朝の連絡会やショートHR等を通じて生徒の状況を把握し遅刻・欠席の減少等、基本的な生活習慣の定着を図る。
 - ⑤ 授業改善に向けて研究授業や公開授業を展開し、よくわかる授業を展開することで生徒及び保護者等による授業評価を通じて指導の向上を図る。また、教育センターのカリナビや（パッケージ）研修を活用して指導力の向上に努める。
- ※ 留年生徒（平成 24 年度 1.06%）を毎年 0.02%減少させ平成 27 年度には 1%以下にする。
 ※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成 24 年度 45%）を毎年 2%引き上げ、平成 27 年度には 50%以上に引き上げる。
 ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」の項目（平成 24 年度 37%）を毎年 3%引き上げ平成 27 年度には 46%に引き上げる。
 ※ 遅刻・欠席者数（平成 24 年度 6,846 件）を毎年 200 件減少させ、平成 27 年度には 6,246 件以下にする（12 月末で比較）。

2 夢と志を持つ生徒育成

(1) 進路指導の充実

- ① 3 年間を見越し継続した指導に取り組み、入学当初から計画的に各大学や専門学校そして職業教育等についてキャリア教育を行う。
 - ② 進路説明会は、保護者が参加しやすいよう基本的に土曜日開催とする。
 - ③ 進路実現に必要な情報を収集するだけでなく、生徒各々が判断できる知識を身に付けさせる。また、「情報の時間」を活用し、自分の意見を人前でも披露できるプレゼンテーション能力を育成する。
- ※ 進学率 90%以上、未定率 1%以下を維持する。

(2) コミュニケーション能力の育成

- ④ 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業での成果を活用し、コミュニケーション能力を育成する。
- ⑤ 文化祭等で、生徒が自主的に活躍できる機会を多く設けて自己肯定感を育成する。

(3) 「生徒の志（こころざし）」を磨く

- ⑥ 総合的な学習の時間等の計画を再検討し、「生徒の志」を更に育成する。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の自己肯定感に関する項目における肯定率（平成 24 年度 27%）を毎年 5%引き上げ、平成 27 年度には 42%にする。

3 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 「生きた壁」となる教職員集団の構築

生徒の悩みや不満を真正面から受け止め、生徒が話を聞いてもらえると思える環境「生徒の居場所づくり」と、あかんものは、あかんと丁寧に対応する「規律指導」。これらのことを教職員一人ひとりが、「生きた壁」となり生徒たちと向き合い、また壁を乗り越える力を育成する。

- ① 学年職員室を有効活用し、日頃から生徒の状況について情報交換ができる環境を作る。
 - ② 教育相談体制を更に充実させ、生徒や保護者そして教職員も安心して相談できる体制を作る。
 - ③ 教職員が教育相談に関する研修に積極的に参加し、その成果を校内研修に活用することで全教職員の指導力の向上を図る。
 - ④ 「すべての教職員が生活指導部」として取り組み、事象が起こったときはその場で丁寧に対応し「安全で安心な」学校づくりに取り組む
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における肯定率（平成 24 年度 29%）を毎年 5%引き上げ、平成 27 年度には 43%にする。
 ※ 生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度（平成 24 年度 36.5%）を毎年 5%引き上げ、平成 27 年度には 50%にする。

(2) 共に学ぶ支援教育の更なる推進

- ⑤ 様々な特性を持つ生徒達に互いの違いを認め合い「共に生きる」精神を醸成し、学校に来るのが楽しいと感じる学校環境をつくる。
 - ⑥ 支援が必要な生徒には、適切な支援計画を作成し組織として取り組む。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度（平成 24 年度 56%）を毎年 3%引き上げ、平成 27 年度には 65%にする。

(3) 豊かな高校生活を送らせる

- ⑦ クラブや文化祭など生徒の自主的な活動を更に活性化させるために、自らが仲間と協力し内容のあるものになるよう教職員が支援する。「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業での成果を活用し、舞台発表の充実を図り、発信能力を向上させる。
 - ⑧ 体育大会やマラソン大会などを通して、生徒自らが何事にも全力で取り組む精神力と体力を育成する。
 - ⑨ 自主性や協調力、集団活動と個性の育成などを図るためクラブ入部率の向上と活性化に取り組む。
 - ⑩ 専門的知識と技術を持つ教職員を中心に、クラブ活動の更なる活性化を図り、さらに若手教職員の指導者養成にも取り組む。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度（平成 24 年度 56%）を毎年 3%引き上げ、平成 27 年度には 65%にする。
 ※ 保護者向け学校教育自己診断の学校に対する満足度（平成 24 年度 52%）を毎年 5%引き上げ、平成 27 年度には 67%にする。
 ※ クラブ入部率（平成 24 年度 42.2%）を毎年 2%以上引き上げ、平成 27 年度には 50%にする。

⑪ 今後 10 年先を見据えた教職員や生徒が共有する目標を創作する。

4 地域と連携した学校づくりに取り組む

(1) ホームページの充実

- ① ホームページを充実させ広報活動に努める。

(2) 地域との連携と理解に取り組む

- ② 地域連携行事として地元中学・保育園等と連携して運動系・文化系クラブを中心に地域交流行事を行う。
- ③ 文化祭の土曜開催

(3) 広報活動の充実

- ④ 本校で開催する学校説明会を土曜開催とし、中学生徒・保護者が来やすい環境を作る。
 - ⑤ 広報委員会を設置し中学校訪問等を計画し全職員で取り組む。
- ※ 地域向け学校教育自己診断を実施し、開かれた学校に関する項目で満足度 60%以上をめざす。
 ※ また、毎年 5%引き上げ、平成 27 年度には 70%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
【学習指導等】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活全般についての質問に対して肯定的な回答は、生徒は 67.0%・保護者 73.0%であった。これは昨年度と比較すると、保護者に変化はないが、生徒については 7ポイントの上昇である。 ・ 授業に関する問いは、「授業は自分に合っている」と 59.9%の生徒が感じている。また、「好きな授業がある」と 57.8%の生徒が答えている。これは、昨年度と比較すると大幅な伸びである。 	第 1 回（7 月 10 日） ○学校協議会実施要項について ・学校協議会の目的とする、保護者等との連携協力や学校運営への参加、保護者の意向の反映などの説明をおこなう。 ・学校経営計画や学校評価、教育活動における保護者の意見に対する調査・審議など協議会の役割を説明・確認する。

- ・ 学習に対する評価については、昨年度と大きな変化はなく 68.6%の生徒が感じている。
- ・ 授業の形態についての質問では、「考えをまとめたり発表したりする授業」の数値が 41.3%と低いと感じている。

- 学習指導全体を見ると生徒の満足度は、昨年比で 8.0ポイントの上昇を示すが、授業形態については個々の教員によるいわゆる講義形式の授業だけではなく、今年度実施したパッケージ研修の趣旨を生かし組織的な校内研修を継続することで「わかりやすい授業」への授業改善につなげていきたい。
- 若手教員が自主的に開始した授業改善のための取組み（授業見学期間）を校内全体に広め、教員が相互に切磋琢磨する環境を作りたい。
- 上記の達成をめざしては、生徒の理解を深めるために取り入れているプロジェクト等による ICT 機器を活用した授業形態を来年度も継続し拡大・充実させたい。

【生徒指導】

- ・ 教員の生徒指導全般については、昨年度と比較して 7.5ポイント上昇している。ただ、「納得できる指導か」の問いかけには、生徒 38.5%と数値は低い。保護者は理解を示している。また、教員についても 77.9%がその必要性と取組みを支持している。
- ・ 「悩みや問題への相談」には、43.0%の生徒が理解を示している。
- 生徒指導については、生徒と保護者や教職員では捉え方に大きな差が見て取れる。本校が行っている指導には保護者の理解もあり、今後も粘り強く生徒の指導にあたっていくが、生徒にとっては近隣の学校と比べて「厳しすぎる」との意識が強い。これを払拭するためにも「なぜ必要なのか」を理解・納得させる話し方や対応を粘り強く行う必要がある。
入学時はもとより機会を見つけては、生徒や保護者に対して本校の校則「自由と規律」の意味や意義を十分に理解してもらい、学校と連携した取組みとする必要がある。
- 生徒指導は、教職員の情報を共有し組織としての対応することが重要である。また、事象が発生したときの迅速で的確な対応ができる指導力を各々の教員が向上のため校内研修に力を注ぐ。
- 教職員と保護者との研修が意識や連帯感を高めるのに有意義であった。今年度も共催した研修を持ち学校と家庭が一緒になって生徒の指導に取り組むたい。

【校内活動】

- ・ 文化祭や体育大会などの学校行事への取組みでは、文化祭が 62.7% 体育大会が 76.3%の生徒が積極的に取り組んだと答えている。この数値は、昨年と比較して 2.5ポイントではあるが増加している。
- ・ クラブ活動に関する問いには、59.1%の生徒が活発であると感じている。
今年度のクラブ活動には、全体で 50.0%（運動部 27.2% 文化部 22.8%）の生徒が入部し活動している。
- 学校行事やクラブ活動への参加や意識は昨年度と比較すると上昇している。特にクラブ活動に関しては意識の上で 13ポイント以上増加している。
これら数値の上昇や各クラブへの入部率は、生徒の活動意欲の高まりであると考えられる。自分の行動に自信を持ち、意欲的に行動する生徒を育成することで、誇りやプライドの言葉に集約できる自己肯定感を育む取組みとしたい。

【保護者の意見から】

- ・ 今年度の保護者の意識や意見で、本校が「生命を大切にする心や社会ルールを守る態度の育成」についての取組みが、昨年度より 13.0ポイント（68.0%）上昇した。また、学校から家庭への情報提供についても同様に 13.0ポイント（65.0%）上昇した。
- 保護者の理解が高まった理由には、本校の取組みへの評価やホームページ等を通じての浸透が考えられる。今後とも継続的な生徒への指導を行うとともに、あらゆる機会を捉えて情報の発信に力を注ぎたい。

- 学校経営計画と現状報告
- ・ 平成 26 年度学校経営計画の説明と確認
- ・ 各分掌、学年団より取組みの説明・報告

- 協議会委員からの意見
- ・ 学校評価については、正確な評価・数値を得るためには質問項目や内容により評価も変わる。アンケート等での質問の仕方に工夫がある。
- ・ 数値目標にこだわるあまり、安易な取組みとならないように。
- ・ 目標に向け果敢に取り組むことが大切であり、その結果として数値が達成できればよい。
- ・ 中学校でもそうであるが、自己肯定感がどの学校においても低い。自己肯定感の伸長がその他様々な取組みの指標・数値とも関連すると思われる。

第 2 回（12 月 17 日）

- 学校経営計画、進捗状況の報告と活動報告
- ・ 各分掌、学年団より取組みの説明・報告

- 協議会委員からの意見
- ・ 来年度の入学者選抜に向けて、学校はどのように取り組んでいるのか。
- ・ 今以上に本校を希望する生徒を増やす必要がある。
- ・ 本校の「広報活動が弱い」と感じている。
- ・ 学校説明会をオープンスクールと改め、体験授業をすべての教科で実施したことは大いに意義がある。学校独自で行うオープンスクールを施設見学やクラブ参加、体験授業と様々な形態で回数を増やして実施する必要がある。
- ・ 上記の広報活動とも関連するが、オープンスクール参加者への年賀状を送るなどのアピール活動を実施してはいかがか。
- ・ スマートホンやインターネットと情報社会の発達によるトラブルが急増している。
そのトラブル防止のためには使用に関する指導や啓発が必要である。教職員がすべて熟知している状況ではないが、不適切な「ネットへの書き込み」等から派生する人権侵害やトラブルに備えてほしい。
- ・ 中学校では、高等学校へ送った生徒について関心があり心配をしている。特に、成績については、高等学校では原級留置などもありその関心は高い。
生徒の成績を含めた動静の共有こそが、中高の連携の肝となると考える。今後とも多くの情報を共有し、生徒を育成してほしい。
- ・ 地域の理解や協力が何よりの広報活動につながる。地域に根差した活動や取組みを期待する。

第 3 回（3 月 12 日）

- 協議会委員からの意見
- 学校経営計画は、ほとんどの項目で目標を達成するなど校内の改革は進んでいるように思えるが、広報（外部に対する発信）が充分ではない。地域や中学生及びその保護者に対しての更なる情報の発信を期待する。

- 平成 27 年度の学校経営計画（案）について、新たな取組みにはどのようなものがあるのか。
⇒今年度から始めた生徒（新入生）による中学校訪問の他、以下のことを計画している。
- ・ 若い教職員が中心として取り組んできた公開授業を指導教諭と共同とし、授業力向上をめざした授業改善をさらに進める。
- ・ 施設見学や説明会だけでなく、夏季休業中の中学生の体験入部や秋季の授業体験など生徒参加を中心としオープンスクールを充実させる。
- ・ 各分掌主催の職員研修の充実を図り保護者の参加を促し、情報や問題の共有化を図る。
- ・ 通学路の安全確保をめざし、関係機関（市役所、警察署、土木事務所等）との協議を行い事故防止に努める。

- 新入生が、貝塚南の生徒としての帰属意識や学校に誇りを持てる取組みの実施を。
⇒学校のスクールキャラクター（貝ニャン）を作成し季節や行事ごとに活用を始めている。その他、
- ・ 生徒が授業での満足度をアップさせるとともにクラブ活動の活性化等、校内活動の充実から取り組む。
- ・ 貝塚警察署と共同で始めたボランティア活動を定期的な活動として支援する。
- ・ 文化祭や体育大会等の学校行事を生徒が積極的に取り組む姿勢を養う。

- 卒業生の進路満足度を実態に合った調査で行ってほしい。
- ・ 具体的には、どこの学校に何人合格したかの数値ではなく、希望する学校に何人の生徒が合格したのか。また、入学当初の目標とした進路にどれだけの生徒が進むことができたか。
⇒担当学年や進路指導部にとどまらず、学校全体の課題として受け止める。
- ・ 希望する進路の実現は当該生徒にとって一番の関心であり、次に続く学年や本校を希望する中学生に対しても大きな希望となる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>1. 教員の授業力向上による学習指導の推進</p> <p>① 成績不振者に対する指導の充実</p> <p>② 進学希望生徒達には授業や講習等、計画的に実施</p> <p>③ 研究授業の推進</p> <p>④ 学年職員室の有効利用（教員間の状況・情報の共有化）</p> <p>⑤ 更なる授業改善</p>	<p>① 成績不振者に対して基礎学力の定着と進展を図る補習を強化に取り組む 生徒の学習習慣の定着を図るとともに目ざす進路目標達成のため、各教科や分掌等が中心となって指導する体制を構築する</p> <p>② 進学希望生徒達には、授業内容の工夫や講習を通じて進路実現に向けて努力させる</p> <p>③ 新規採用4年目までの教員を中心に研究授業に取り組み、授業力の向上を目指す</p> <p>④ 始業前のSHR等で生徒の状況を把握し、基本的な生活習慣の改善を促す指導等による遅刻・欠席の減少に努める</p> <p>⑤ 授業改善に向け少人数展開・研究授業や公開授業を実施し、生徒及び保護者等の授業評価を通じて指導の向上を図る また、教育センターの研修など外部研修も積極的に参加し、全教職員の指導力の向上に努める</p>	<p>①、②、③、④ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成25年49.3%）55.0%を目標とする</p> <p>進学や就職のための講習を教科と分掌が共同して作成し、体系化を図る</p> <p>授業力向上や改善を目的として、研究授業を各学期2回実施し教員の授業力の向上をめざす</p> <p>原級留置となる生徒数を10名以下をめざす</p> <p>④ 欠席・遅刻者数、約10%の削減をめざす 欠席 2,469件⇒2,200件 遅刻 3,354件⇒3,100件</p> <p>参考:平成25年度12月末 欠席 2,469件 遅刻 3,354件</p> <p>⑤ 生徒向け学校教育自己診断で「授業はわかりやすい」の項目（平成25年度42.0%）</p> <p>学校教育自己診断の設問を「先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい」と変更し到達目標を60.0%とする</p>	<p>①、②、③、④ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度は、57.2%と目標値を2.2ポイント上回った（◎）</p> <p>研究授業やパッケージ研修等が計画通りに実施できた他に、「授業見学月間」と銘打って若手教員による自主的な取組みが始まった（◎）</p> <p>進路実現に向けた取組み（12月末現在） ・4年制大学（88名合格）：近畿大学（1）大阪経済大学（2）桃山学院大学（22）摂南大学（8）阪南大学（5）四天王寺大学（3） ・短期大学（27名合格）：常盤会短期大学（4）大阪健康福祉短期大学（4）夕陽丘学園短期大学（7） ・看護系（10名）：藍野大学短期大学部（2）泉佐野泉南医師会看護専門学校（2）</p> <p>また、指定校や推薦による入試を受験する生徒は多いが、一般試験での受験をめざす者やセンター試験の受験者が例年より多くなった（○）</p> <p>④ 始業前のSHRでの生徒状況の把握や指導体制の強化を引き続き実施したが欠席者や遅刻者は目標とする数値には届かなかった（△） ・欠席数 2,514件 遅刻数 3,540件</p> <p>⑤ 生徒の授業に関する評価は、昨年度と比べて総合的には7.9ポイント上昇し、授業満足度に関しては、15ポイントも上昇した（◎）</p> <p>*従来の教員による講義型の授業だけではなく、今年度実施したパッケージ研修の趣旨を踏まえた組織的な校内研修を活かし「わかりやすい授業」、生徒の発表をもっと取り入れ、生徒同士が教えあうような双方向的な授業形態を多く取り入れたい</p>
2 夢と志を持つ生徒育成	<p>1. 進路指導の充実</p> <p>① 3年間を見越した指導、</p> <p>② 進路説明会の充実</p> <p>③ プレゼンテーション能力の育成</p> <p>2. 自己実現に向けた取組み</p> <p>④ コミュニケーション能力育成</p> <p>⑤ 自己肯定感の育成</p> <p>⑥ 「生徒の志（こころざし）」を磨く</p> <p>3. 新たな目標づくり</p> <p>⑦ 今後を見据えた教職員や生徒が共有する目標づくり</p>	<p>① 3年間を見越した指導に取り組み、入学時からHR等を活用し計画的なキャリア教育を行い、生徒がめざす進路の実現に取り組む</p> <p>② 生徒や保護者を対象にした進路説明会を土曜日開催し、多くの参加者を募る</p> <p>③ 教科「情報」等を活用はもとより、あらゆる機会を設けて情報を収集し活用する姿勢を身に付けさせる その成果として、人前での成果発表や表現ができる指導を行う</p> <p>④ 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業での成果を活用し、コミュニケーション能力を育成する。</p> <p>⑤ 文化祭や体育大会、クラブ活動等で生徒が自主的に活動する機会を通して自己肯定感を育成する。</p> <p>⑥ 総合的な学習の時間等の計画を再検討し、「生徒の志」を更に育成する。 また、各種ボランティア活動や地域交流会を通じて志を育成する。</p> <p>⑦ 創立40年が過ぎ、第二の校訓となる新たな目標（標語やスローガン）の創作</p>	<p>①、② 卒業時、生徒自らの進路に対する満足度が80.0%以上を目標とする</p> <p>進学希望者の合格率90%以上、卒業後の進路未定者を1.0%以下を維持する</p> <p>③、④、⑤、⑥ 生徒向け学校教育自己診断の自己肯定感に関する項目における肯定率（平成25年度32.5%）を37.0%以上をめざす</p> <p>⑦ 第二の校訓の設定</p>	<p>①、② ・進学率：85.0% ・就職（29名）：学校斡旋24名、その他4名 ・公務員：1名が合格 ・受験の発表を待つものを含め進路未定の者は、12名 進路に対する満足度は74.0%と、目標とした数値には達しなかった（△） 進学を希望する生徒の91.6%が合格（○） 進路指導については、講習による指導はもとより外部講師をも含め継続した指導に取り組む</p> <p>進路説明会を土曜日に実施し、多くの生徒や保護者の参加をいただいた。（○）</p> <p>③、④、⑤、⑥ 文化祭や体育大会、HR活動での取り組みを通じて活動意欲は向上している。また、クラブ活動に関しても意識は高まっている。 自己肯定感に関しては、目標値を1ポイント上回る38.0%であった（◎）</p> <p>*自分の考えや意見を分かりやすく伝えることは、まだまだ苦手であり引き続きの取組みが必要と感じる</p> <p>⑦ 第二の校訓（スローガン）として「Try ここで これから」を策定（○）</p> <p>学校のスクール・キャラクター（貝ニヤン）を作成。文化祭や学校説明会等でも活躍 生徒会でも季節ごとに飾りつけを換え、学校ホームページでもその都度紹介している（◎）</p>

府立貝塚南高等学校

<p>3 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>1. 「生きた壁」となる教職員集団の構築 ① 学年職員室の活用 ② 教育相談の充実 ③ 指導力向上 ④ 安全安心な学校作り</p> <p>2. 「共に学ぶ」支援教育の推進 ⑤ 「共に生きる」精神醸成 ⑥ 支援計画作成</p> <p>3. 豊かな高校生活 ⑦ 発信能力の向上 ⑧ 精神と体力の育成 ⑨ クラブの活性化 ⑩ 指導者育成</p>	<p>① 学年職員室を活用し、相互の情報の供用によりきめ細やかな生徒指導にあたる ② 教育相談体制の充実による指導と教職員の情報の共有化を図る ③ 外部研修に積極的に参加し、その成果行内研修として活かすすべての教職員の指導力の向上を図る ④ 「すべての教職員が生活指導部」として取り組み、事象が起こったときはその場で丁寧に対応する「安全で安心な」学校づくりに取り組む 上記の目的達成に不可欠な、機動力に富み組織的な対応が取れる体制作りを行う ⑤ 様々な特性を持つ生徒達に互いの違いを認め合い「共に生きる」精神を醸成させ、学校に来るのが楽しいと感じる学校環境をつくる ⑥ 適切な支援計画を作成し、組織として取り組む ⑦ 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業での成果を活かし、人前での意見発表や表現など、発信能力を向上させる ⑧ 体育大会やマラソン大会などを通して、生徒自らが、何事にも全力で取り組む精神力と体力を育成する ⑨ 入学当初、クラブ紹介やの体験入部などを実施し、クラブ入部率の向上と活発な活動をめざす ⑩ 専門的知識と技術を持つ教職員や外部指導者の協力をあおぎ、クラブ活動の更なる活性化を図ると共に若手教職員の指導者養成にも取り組む</p>	<p>①、⑦、⑧ 生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における満足度(平成25年度38.0%)を2ポイント上昇させ40%以上とする</p> <p>②、③ 生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度(平成25年度39.5%)を42%以上にする</p> <p>④、⑤、⑥ 生徒向け学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度(平成25年度60.0%)を62.0%以上を目標とする</p> <p>保護者向け学校教育自己診断の学校に対する満足度(平成25年度58.0%)から3.0ポイント上昇をめざす</p> <p>内規の改変を含めた組織的な体制作りと明文化</p> <p>⑨、⑩ クラブ入部率(平成25年度49.8%)を53.0%以上にする</p>	<p>①、⑦、⑧ 生徒の学校教育自己診断の規範意識に対する肯定度は38.0%と、昨年度と同じ数値であった(△)</p> <p>②、③ 生徒の学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度は目標値を大幅に上回る50.0%であった(◎)</p> <p>*この数値が、一過性にとどまることの無いよう次年度も継続して取り組みたい</p> <p>④、⑤、⑥ 生徒の学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度は67.0%と、目標を上回って達成した(◎) 保護者に対する学校教育自己診断における学校に対する満足度は、73.0%とこれも目標値を大幅に上回った(◎)</p> <p>*多くの意向・意見を知り学校運営に生かすためには今後ともアンケートにも改善を加え、生徒や保護者の思いが反映されるものとした</p> <p>*内規について明文化した。今後は、実態に即した運用と透明性の確保に努める</p> <p>⑨、⑩ クラブ活動は、1年生の参加率が他の学年と比較してやや低いことが影響し、入部率は50.38%と残念ながら目標値に達しなかった(△)</p> <p>*クラブ活動は、全教職員が顧問として指導にあたっているが、専門性が必要とされる種目も多く困難をきたしている。今後は、教員の指導はもとより、積極的な外部からの指導者の発掘にも当たりたい *活発なクラブ活動や生徒の意欲的な取組みが学校の活性化につながると思われるので、次年度もクラブ指導や行事への支援を意欲的に取り組む</p>
<p>4 地域と連携した学校づくり</p>	<p>1. 広報活動充実 ① ホームページを活用しての広報</p> <p>2. 地域連携 ② 地域との交流行事開催 ③ 学校行事の活性化</p> <p>3. 広報活動の充実 ④ 学校説明会 ⑤ 広報委員会</p>	<p>① 基本的には一ヶ月に一度以上のホームページを更新し、外部への情報を発信する 保護者の要望も取り入れ、必要とする情報の記載に努める ② 地域連携行事として地元中学や団体とも連携し、運動系・文化系クラブを中心に交流行事を行う 貝塚警察署との連携で始まったボランティア活動(サークル名、KEYS)を継続発展させ、多くの生徒の参加により地域に貢献する取り組みを定着させる 地域の行事や取り組みに積極的に参加し、情報を発信するだけでなく情報の取集も行う ③ 文化祭や体育大会等の学校行事の活性化を図り、生徒の意欲を引き出す ④ 本校で開催する学校説明会を土曜開催を定着させ、生徒・保護者が参加しやすい環境とする 個別の学校に対する問い合わせや見学などにも随時対応する ⑤ 広報委員会が、中学校訪問等を計画し全職員で取り組む また学校訪問は、教員だけでなく生徒による中学校訪問を企画し入学後の近況報告や本校の現状をアピールする場を設定する</p>	<p>①、②、③、④、⑤ 地域向け学校教育自己診断で、開かれた学校に関する満足度を平成25年度比、3ポイント上昇をめざす</p> <p>③ 生徒向け学校教育自己診断における体育大会や文化祭の取組み、満足度62.0%をめざす</p> <p>⑤ 学校説明会参加者を250名に増やす</p> <p>職員だけでなく、新入生による中学校訪問を企画し実施する。</p>	<p>① ②、③、④、⑤ 地域への情報公開等に関して、開かれた学校に関する項目は昨年度と比較して目標値を大幅に上回る65.0%であった(◎)</p> <p>この要因として考えられるのは、取組みとして記載した部活動を通じての他校との交流やボランティアサークルの活動の他 1)生徒(1年生)による中学校訪問 2)クラブ有志生徒による近隣の清掃活動 3)スクール・キャラクターの作成と活用 4)学校ホームページの更新期間の短縮</p> <p>*地域への情報発信はもとより、今後は情報の受信にも力を注ぎたい</p> <p>② 貝塚警察署と連携してのボランティア活動は、年間を通して実施(合計8回)し、活動の中で地域の小・中学校や地域の多くの人たちとの交流が認知されて表彰も受けた(◎)</p> <p>*生徒の自主的な活動を引き出し発展させるため、定期的な活動となるよう計画を立案する</p> <p>③ 文化祭を土曜に開催 PTA・保護者参加のバザーや日本赤十字の献血にも協力した結果、表彰を受けることができた 体育大会や文化祭について生徒の満足度は、64.0%で目標値を達成した(○)</p> <p>*土曜開催の継続と他校との交流を活発に行い、生徒が主体的に取り組む活力を発揮する文化祭としたい</p> <p>④ 本校での学校説明会を土曜日に開催し、参加者は203名と目標値には残念ながら達しなかった(△) *次年度もオープンスクールの名称で開催し、クラブ紹介(参加)や施設見学、体験授業参加等として開催回数を増やす 中学校との連携や広報活動の一環として、中学校訪問(特に本校在校生による)に力を注ぎたい</p> <p>⑤ 多くの1年生が、夏休みに中学校を尋ね本校での活動や生活を伝えた(◎)</p>